

平成 24 年度

視察研修報告書綴

研修日：平成 24 年 11 月 12 日(月)

視察研修地：大分県豊後高田市

基山町議会

総務文教常任委員会

平成 24 年 11 月 20 日

基山町議会議長
後 藤 信 八 殿

総務文教常任委員会
委員長 鳥 飼 勝 美

総務文教常任委員会所管事項視察研修報告書

標記の件に対して、下記の通り報告します。

記

1. 視察研修期日

平成 24 年 11 月 12 日（月）～ 平成 24 年 11 月 13 日（火）

2. 研修地

大分県豊後高田市

3. 研修参加者（総務文教常任委員会 6 名）

片山一儀、松石信男、河野保久、久保山義明、神前輔行、鳥飼勝美

4. 豊後高田市の概要

同市は、2005 年 3 月 31 日に、豊後高田市、真玉町、香々地町が対等合併し、新生豊後高田市として誕生している。

人口は、約 24 千人、面積は 206 km²(基山町の約 9 倍)、人口密度は 114 人/km²(基山町は約 800 人)であり、豊前と豊後の境界にある。

観光名所としては、富貴寺(平安時代の建築物の大堂が国宝)、真木の大堂(重要文化財の仏像)等の国東半島の山岳仏教の地でもあり、昭和の町(昭和 30 年代の街並みを再現)を通しての街づくりが進められている。

5. 研修事項

(1) 自主防災組織について（総務課長補佐 後藤史明氏）

昨年の東日本大震災を受けて、特に周防灘に面する沿岸部の自治会 80 地区の津波による危機感がある。同市の 163 の全自治会に自主防災組織が組織されている。また、各戸にケーブルテレビが設置(普及率 93%)されており、避難訓練や情報伝達に威力を発揮している状況である。しかし、今後の課題としては、高齢者等の要援護者の避難対策、対象者名簿の把握等が重要であるとの認識があった。また、自主防災組織への市からの補助制度もある。

今回の研修で、基山町の自主防災に対する現状は、消防団任せの状況であり、

今後は、地域は地域で守るという自助・共助の観点から自主防災への取り組みが重要であると考える。

そのためには、各区に自主防災組織設置するなど、町の積極的な推進体制が必要と考える。

(2) 図書館建設について、

同市の現在の図書館は、25 年前に市の中央公民館に併設されたものであり、蔵書数も 3 万 2 千冊(基山町 7 万冊)と少なく、老朽化、耐震化もなされていない。平成 17 年の合併を控えたアンケートによると図書館の整備を求める声が最も大きかった。

平成 21 年 4 月の市長選挙において、図書館建設をマニフェストにあげた現職市長が無投票当選し、建設に着手し、平成 25 年 2 月開館予定

建設用地は、市有地(児童公園・職員駐車場)を活用する。

建設規模は、用地 3,604 m²、鉄筋コンクリート 2 階建、延床面積 2,000 m²
蔵書数 14 万冊、事業費約 9 億円 (内国庫補助 21 千万円・過疎対策債 62 千万円・一般財源 7 千万円)

- ① 基本計画を策定するにあたり、公募 3 名、学識経験者 2 名、を含め 15 名で「新図書館基本計画策定市民懇談会」を設置し、3 回開催した。
- ② 新図書館の基本理念として「現在・過去・未来へー学びの空間」とした
- ③ 新図書館の設計者選考は、「指名プロポーザル(技術提案)方式」
- ④ 新図書館の管理運営は、5 年間の指定管理者制度を導入し、「TRC グループ」が指定されている。

今回の研修で、豊後高田市の新図書館の建設が短期間の内に建設されていて、また、その事業費の約 9 割が補助金、過疎対策債(償還費の 70%が交付税措置)で賄われていることに驚愕した。それに引き替え基山町の新図書館建設構想は、十数年前から総合計画にも謳われて来ているが、その実現には今日まで何ら進展がない。現在新図書館建設検討委員会が設置されているが、設置場所を含めて不透明な状況であり、今後、町長の設置場所の決断が強く求められている。

(3) 「学びの 21 世紀塾」について 河野教育長 瀬口学校教育課長

同市は、「昭和の町は教育の町です」をキャッチフレーズに昭和の良さを生かした教育の再生に取り組んでいる。その中心事業が「学びの 21 世紀塾」である。この事業は 2002 年の学校 5 日制が導入され、土曜日に公(市)が子供の学力や体力、心を育てることを保障できたらということで開設されている。

毎週土曜日に寺子屋講座・パソコン講座を幼・小・中生を対象、幼稚園文字・英会話教室、放課後補習教室、ケーブルテレビを通じてのテレビ寺子屋講座など官民挙げての多彩な事業を展開している。以前の学力調査では県内最下位クラスであったが、最近 5 年間では、県内一位の結果を残している。年間予算は 12 百万円 (1/2 補助金)、平成 25 年度から小中学校の一貫校が誕生する。

以上

平成 2 4 年総務文教常任委員会研修レポート

1. 研修目的：自主防災組織、図書館建設及び教育のまちづくりについて
2. 研修先：大分県豊後高田市
3. 研修期間：平成 2 4 年 1 1 月 1 2 日（月）～ 1 3 日（火）
4. 研修の概要：
 - （1）基山町公用車を使用（Dr は神前議員）して 1 2 日 0 9 1 0 時基山庁舎を出発した。
高速大分道を経て宇佐市に入った。宇佐神宮に参拝後豊後高田市で昼食した。
予定した 1 3 3 0 時に豊後高田市議会棟を訪問した。
 - （2）市議会議長の挨拶があり議会要覧及び「市議会だより六郷」第 3 0 号を頂いた。
議会だよりは A 4 版の片面刷 1 枚であった。
 - （3）議会棟へ市の総務課から防災担当者が来られ自主防災制度の概要説明があった。
 - （4）議会棟へ教育委員会総務課社会教育係の専門員が来られ図書館建設について説明があった。爾後建設中の図書館を見学した。その後、議会事務局員の案内で教育委員会を訪問し教育長の挨拶並びに学校教育課長等から「学びの 2 1 世紀塾」について説明を受けた。又学びの 2 1 世紀塾の現地に案内を頂いた。主たる研修は以上であった。
 - （5）2 1 日夜は市営スパランド真玉山翠荘に投宿した。
翌 2 2 日は宿を 9 時出発、豊後高田市の歴史的資産である国宝富貴寺、楨大堂、熊野磨崖仏（熊野社）を見学した。市内の昭和の町（観光資産）を見学、同地で昼食をとった。帰路は山国川沿いを走り豪雨被害跡を車窓から眺めて日田市へ入り、高速大分道を経て 1 5 3 0 時頃基山庁舎に帰着した。

5. 研修の成果

（1）全 般

豊後高田市は平成 1 7 年 3 月に真玉町、香々地町と合併して現在に至っている。

総面積：約 2 0 6 km²、人口：2 3,8 8 0 人、高齢化率：3 4.1 %、2 3 年度一般会計の決算収支は、歳入合計：1 4 7 億 7 千万円、歳出合計：1 4 3 億 9 千万円である。市議会議員は 2 0 名、事務局員は 5 名である。

※ 所見

市長の明確な戦略的指針に基づき、行財政改革、2 1 世紀のまち造りの為に、基礎調査・創造的企画立案・統合的な実施を強い指導力で遂行されていると感じた。
特に注目すべき点はケーブルネットワーク事業を始めたことであろう。

(2) 自主防災組織について

- ア. 自治会（行政区）が 163 ある。自主防災組織は 152 が組織されている。
複数の自治会で統合して「自主防災組織設立届」を提出している。故に自治会の 100% が自主防災組織に加入している。
- イ. 市は、各自主防災組織に自主防災組織活性化補助金を交付している。
- ウ. 市は各自主防災組織に少なくとも 1 名の「防災士」の配置を推進している。
- エ. エリアメールの導入で緊急情報の伝達をしている。

※ 所見

市の組織に消防本部を設置し、市長の幕僚部として防災に力点が注がれている成果であろう。東日本大震災・津波災害を分析し改善を必要とする箇所も散見される。例えばエリアメールは平時には有効であるが非常時には使えない公算が高い。ケーブルネットワークの活用が有効であろう。

(3) 新図書館建設について

- ア. 新図書館は、①「教育のまち」づくりの拠点施設、②「若者の定住促進」のための施設という、明確な二つの政治目的を達成する手段として建設が進められている。場所も中心地に設定してあった。
- イ. 新図書館の基本理念は「現在・過去・未来へ・・・学びの空間」で、設計者はプロポーザル方式を導入している。
- ウ. 建物：RC 造り、延床面積：約 2076 m²、建設費用：約 8 億 9 千万円、図書購入費：約 1 億 7 千万円である。
- エ. 管理運営は指定管理者制度を導入し、TRC グループが指定されている。

※ 所見

「教育のまち」づくりという大方針に基づき基本計画を作成し、明確な政治目的達成の為、周到な準備のもと建設を目指されている。

市長のリーダーシップと、教育長以下教育委員会スタッフの努力の結晶と思った。

(4) 「学びの 21 世紀塾」について

- ア. 平成 14 年度から導入された学校完全週 5 日制に呼応して「学びの 21 世紀塾」を開塾されていた。「昭和の町は教育の町です」事業として 10 項目に及ぶ事業を体系的に創造・企画・継続・拡張されている。
- イ. その成果は、平成 24 年度大分県基礎・基本の定着度調査結果として表れている。小学校 5 年生国語：平均 81.3（市）／77.3（県）、算数：平均 76.0（市）／71.7（県）、中学校 2 年国語：平均 73.0（市）／64.6（県）、数学：平均 69.2（市）、英語：平均 76.8（市）／64.4（県）と報告されている。

※ 所見

学校完全週 5 日制の導入に伴う、「観兆即動」しかも「まち造り」は人造りという高

次元の理念に基づき過去・現在・未来をつなぐ事業として、綿密な見積、市の塾に学習塾の経営者や一般市民を講師に招く等、破天荒ともいえる着想・創造、企画によって遂行されている。市長の強いリーダーシップと高い行政力（職員の力）を感じた。教育長は元教師を選任する例が多いが豊後高田市は行政職員からの起用である。現在は教育長を公募する例もある。

基山町にもＥ－ファイルがあり自分も登録しているが活用されたためしがない。

（５）その他

教育委員会は元真玉町庁舎にあった。訪問した時カウンター内の全職員が起立して挨拶されたのには、教育長の強い指導力を感じた。

6. 議員研修の改善事項

（１）議員研修の在り方の検討

議員一人当たり研修費（特別旅費）として標準予算化されている。予算があるから視察を行う式の視察研修は時代にそぐわない。税金の無駄遣いだ。

現在はインターネットの普及で行政資料は殆ど入手出来、研究できる時代だ。今次研修の資料もネット上に公開されている。インターネット社会における研修の在り方を議論すべきだと考える。

（２）緻密な研修計画の作成

ア．今次研修は議会が作成した「議員は県計画表」の派遣目的に①自主防災組織について、②図書館建設について、③教育のまちづくりについて、と示されていた。これは目的ではない。研修の項目である。総務文教常任委員会研修計画は行政視察行程表のみであった。委員会として具体的に何を研修するかを審議し研修計画を作成すべきだと考える。

イ．委員長は時間が無いから質問は余りしないでくれと事前に制約・統制する有様である。緻密な研修計画を作成していないのが原因であろう。

（３）公務旅行の在り方の検討

ア．現地視察が必要な研修なら標準予算ではなく年度の事業として予算化する。

イ．毎月常任委員会積立金を５千円している。この大部分が視察研修時の為である。視察研修が公私混同化する温床になってはいないか。

ウ．今次研修においても中津市国道２１２号線を経て日田ＩＣで高速道に乗るべきところを委員長指示で、ＩＣを通り過ぎお土産を買うために寄り道をした。これは公用車の私的供用である。その為、私は下車しなかった。

行政のチェック機能を果たす任務がある議会は、先ず自ら襟を正し綱紀粛正をしなければならない。特に委員長は行政の筆頭課長であった。

基山町行政の在り様を憂うる。

視察報告

松石信男

総務文教委員会

豊後高田市視察



▲市役所で説明を受ける総務文教委員

総務文教委員会氏名

鳥飼勝美 片山一儀 松石信男
河野保久 久保山義明 神前輔行

基山町議会総務文教委員会（松石議員他6人）は、11月12～13日の日程で、大分県豊後高田市の視察を行いました。視察には後藤議長も参加しました。豊後高田市は商店街など昭和の町並みを再生した「昭和の町」としても有名です。

《視察内容》

- ・ 自主防災組織について
- ・ 図書館建設について
- ・ 教育のまちづくりについて

視察費用（一人当たり）

宿泊費（1泊）	12,000円
日当（2日分）	5,200円
合 計	17,200円

※交通費は基山町公用車使用のためありません。

自主防災組織について

豊後高田市の自主防災組織は「自分たちの地域は、自分たちで守る」という理念のもとに各自治会（基山町の区に当る）ごとに100%組織されており、市から補助金を受け避難施設の整備、防災研修会などが自主的に行われています。市では各自治会に1人の※防災士養成を目標に研修会を実施しています。

総務課の荒木昌史の説明によれば、3・11東日本大震災を受け地域の防災意識が高まり、各自主防災組織のから訓練の申し出、津波の緊急避難場所の設定、避難経路などの防災対策が進んでいます。また、災害時の連絡網の見直しを図り、とくに高齢者、障害者などの災害時要援護者への連絡網の作成が地域の中で取り組まれています。

※防災士とは

NPO法人「日本防災士機構」が認定する資格で、取得後は、防災意識の啓発や予防訓練活動の主導、災害時には避難活動をサポートする。

図書館建設について

現在の市立図書館は、中央公



民館に併設されたもので昭和62年に開館。現在25年を経過して耐震化やバリアフリー化が十分のため、来年春の開館を目指して現在建設工事が進んでいます。豊後高田市教育庁の説明によれば、市では「新しいまちづくり」のための拠点としての図書館建設を進めており、①「教育のまち」づくりの拠点施設として②「若者の定住促進」のための施設としての図書館の存在は欠かせないとしています。

図書館用地の選定に当たって

は、①用地取得費など生じないこと②市内の中心地に位置すること③建築面積の確保を踏まえ、市役所内で検討決定され、市役所横の児童公園及び職員駐車場を活用し建設されています。

建設費として8億8700

河野教育長熱く語る

「教育格差なくしたい」

開口一番「昭和の町は教育の町です」と述べた教育長にその中心事業としての「学びの21世紀塾」について聞きました。河野教育長は、教育委員会が市民のボランティアによる講師や教職員とともに、無料で学習塾を開いた理由について、保護者へのアンケートで子どもたちの学力の



▲寺子屋プラチナ館で学ぶ子どもたち

低下、土曜日の過ごし方に大きな不安があったことを上げ、「辺地であるとか、経済的理由にかかわらず、受ける教育の権利が保障される必要があるというのが一番の根拠にある」と思いを述べました。

今から10年前に始まった「学びの21世紀塾」は、今では「大分県基礎・基本の定着度調査結果」で、小中学生とも県下で最高の成績を出しています。

「学びの21世紀塾」3つのとりくみ

①いきいき土曜日事業

- 寺子屋講座、パソコン講座—幼・小・中土曜日講座
- 中学校水曜日講座—全中学校で毎週実施
- 中学3年生夏季・冬季特別講座—7日間の集中講座
- 幼稚園文字・英会話教室—週2日の出前授業
- 寺子屋昭和館、プラチナ館—小学4.5.6年生の放課後補充学習
- テレビ寺子屋講座—ケーブルテレビ活用した番組放映

②わくわく体験活動事業

③のびのび放課後活動事業

視察研修報告書

I 概要

- ✧ 期日・・・・・・・・ 平成 24 年 11 月 12 日（月）～13 日（火）
- ✧ 場所・・・・・・・・ 大分県豊後高田市
- ✧ 参加者・・・・ 鳥飼委員長、片山委員、松石委員、久保山委員、神前委員、後藤議長
- ✧ 研修事案、及び個人目的
 - （１）自主防災組織について——組織、活動内容等
 - （２）図書館建設について——経緯、規模等
 - （３）教育の町づくりについて——学びの 21 世紀塾の運営の仕方
(学校、特に教師との関係、ボランティアの詳細)

II 内容

（１） 自主防災組織について

- ① 自治会 163 を軸とした自治会の連絡網を作成、提出してもらい 152 の自主防災会を組織化した。(1 組合当たり 200 世帯から 30 世帯とばらつきがあり大世帯の所は班を作っている)
- ② 市からの資金援助は、平成 23 年度実績としては 332 千円、内訳としては避難防説等整備事業 1 件、防災研修会等事業で 8 件である。
自主防災組織活性化事業費補助金交付要綱を策定し、援助を行っている。
- ③ 広報活動は市報に防災コーナーを設けて毎回シリーズで連載を行い、市民へのアピールを行っている。
- ④ 現状

- 84 ヲ所にて津波の際の避難場所を設定、ケーブルテレビ（93%が組織化）を利用した避難訓練を実施している。
- 防災士の育成を図り、現在 50 名が資格修得している。
- 時間を経過した連絡網の見直しが急務であるとの事。



⑤ 所感

歓迎のあいさつを受ける

- 152 の防災会への連絡、指導等を少人数で行うのには、かなりの労力と工夫がいると感じた。
- ケーブルテレビの運営に 4 億 8 千万円の特別会計を組み、運用している。
うらやましい限りと言うのが素直な感想である。
- 市報に防災コーナーの連載を行い、種々な情報を発信し、市民の防災意識の高揚を図っている点は参考になると感じた。

（２） 図書館建設について

① 経緯

- 図書館建設の必要性が高まった中での市長選挙で、マニフェストにて図書館建設の検討を明記し、現市長が無投票当選した。
- 庁内の検討組織にて市有地の活用を決定し、具体的予定地を選定
- 「新図書館基本計画策定市民懇談会」を設置（15 名内 3 名公募）
- 懇談会で練り上げた基本計画案についてパブリックコメントを実施（意見数 17 件）し基本計画を策定、基本理念を「現在、過去、未来へ——学びの空間」とおく事を決定
- プロポーザル方式による設計者を選考し、基本設計を行い実施設計を決定。

概要は次の通り

- 鉄筋コンクリート造り（一部鉄骨造り）2 階建て
- 延べ床面積 2076 m²（1 F 1662 + 2 F 414）現図書館の 10 倍
- 蔵書規模 約 140,000 冊（現在の 2.8 倍）

内開架 80,000 冊（現在の 2.7 倍）

- 予算は本体工事費共 735,647 千円をはじめとする 886,849 千円

財源としては 社会資本整備総合交付金 210,110 千円

過疎対策事業債 623,400 千円

(その他本の購入代 165,000 千円を予定)

- 25 年 2 月に開館予定とする
- 管理運営は、指定管理者制度を導入。

② 所感

- 建設中の図書館を見学し、その規模の大きさに只々驚いた。
- 建設までの経過については、市民の広報等で非常に参考になる点が多かったが、全体については懇談会のメンバーに市議会議員を入れる等の配慮がみられ、市の主導型の図書館という感を強くした。



建設中の新図書館

- 基山町の図書館建設に於いて経過は参考になるが、図書館本体についてはその類では無いと思った。

(3) 教育の町づくりについて

——「学びの 21 世紀塾」を基軸にすえた豊後高田市の学力向上のとりくみ——

① 概要

- ア 2002 年の学校 5 日制が導入されたのを契機に、土曜日に公が子どもの学力や体力、心を育てることを保障出来たらという思いから「学びの 21 世紀塾」を開設した。
- イ 学ぶとは学力だけではないという考えから次の 3 つの取組みを柱に組織化し、運営されている。

いきいき土曜日事業—「知」(確かな学力の育成)

わくわく体験活動事業—「徳」(豊かな心の育成)

のびのび放課後活動事業—「体」(健やかな体の育成)

- ウ 塾の講師は市民で約 300 名、その他約 150 名のボランティアによって運営されている

エ 塾での授業は復習のみ、学校より先行した授業は行わない。

オ ケーブルテレビを活用した「テレビ寺子屋講座」
を開設し、授業のフォローを行っている。

カ 子供たちの学ぶことへの習慣づけは、学校のクラブ顧問の力を借り、中学校では約 8 割の生徒が塾に参加している。



教育の町について説明を受ける

② 所感

ア 教育長の熱い想いがあって、教育のまちづくりが実現されている事を痛感した。

イ 運営にもいろいろの工夫がなされており、教師たちが積極的に関わりを持っている事がすばらしい。

ウ 講師の中に、高校生をはじめとした若者達がいるとの事、羨ましいかぎりである。
基山町でも若者の参加をうながし、事業を展開していく工夫・努力が必要と感じた。

エ 基山町の教育ビジョンを策定し、小・中学校及び地域が一体となった学校づくりが是非必要と感じた。

オ プラチナ館における小学 4~6 年生対象の放課後補充学習
を見学した時の子供たちの真剣な学習態度が、目に焼き付いている。



プラチナ館での学習風景

(4) その他

ア 「昭和のまち」の町並が残され、観光客で賑わっていた。そんな様をみて基山町でも集客できるような事業を模索しなければと思った。

イ 帰路、国道 212 号線沿い山国川の豪雨被害の「惨状」を目にし、改めてあの豪雨が「過去に経験したことが無いもの」であったことを痛感した。



「昭和の町」豊後高田市の町並

Ⅲ 研修視察雑感

1 泊 2 日ではあったが内容の濃い研修であった。特に町づくりに於いては、リーダーの熱

い想いがその原動力になること体感した。今回の貴重な体験を、今後の議員活動にどう活かしていくかが、この研修の意義を高めていく上での課題であると思っている。

以上

視察研修報告書

基山町議会 総務文教委員会

日程：11月12日(月)～13日(火)

視察先：大分県豊後高田市

目次

巻頭言・・・1

自主防災組織・・・2

図書館建設

図書館建設・・・3

学びの21世紀塾・・・4

H24. 11.20 発行

巻頭言 本気と覚悟

私自身、今回の研修先である豊後高田市は、今年の1月13日に自主研修の一環として教育行政「学びの21世紀塾」について全国若手市議会議員の会に同行させて頂いた以来、2度目の訪問となった。

1度目の訪問後、すぐに平成24年第1回定例会(3月議会)の一般質問に於いて「教育行政について～全国学習・学力状況調査について基山町立小中学校の現況に対する所感を示せ～」と教育長の考え方を質した。この時の質問を受けて、総務文教委員の議員から今年度の視察研修先を豊後高田市にしたいと申し入れを頂いたことは、率直に複雑な気持ちであったが、ぜひ多くの議員にこの豊後高田市が取り組む教育行政の「本気と覚悟」を目の当たりにして頂きたい気持ちもあり、総務文教委員会の総意としての訪問となった。

今回の視察研修目的は、もちろん教育行政「学びの21世紀塾」についてが主目的ではあるが、来年2月に開館予定の市立図書館建設の検討過程や財源、現地視察。また、自主防災組織といった基山町が

抱える諸問題についての先進地自治体としての数々の取り組みは刺激的なものとなった。

具体的な内容については後述するが、それぞれの取り組みに於いてまさに自治体としての危機感が如実に表れ、結果、職員を始め住民の「本気と覚悟」が手に取るように体感できた。

二日目の研修となった「昭和の町」では、住民自らまちづくり株式会社を設立し、また、国宝 富貴寺、国特別指定の真木大堂など、地域住民によって管理されている状況は、ある意味、協働の最前線という印象さえ受けた。

今回の研修において豊後高田市の教育長は、「視察後にここだから出来たことであって、ウチの自治体ではねえ。という声をよく聞く。だったら見に行かなきゃいいのにね。」という言葉は印象的だった。

そのとおりと思う。それぞれの自治体にあった取り組みは必要だが、まず実行してみること。

そこには、基山町に携わる全ての人の本気と覚悟が必要である。

今回の研修で一番学んだことかもしれない。

基山町議会議員 総務文教委員会 久保山 義明

豊後高田市の概要

豊後高田市(ぶんごたかだし)は、大分県の北部に位置する市。2005年3月31日に西国東郡真玉町、香々地町と合併して新たな豊後高田市が誕生した。

面積 206.65km²
総人口 23,485人(2012年9月1日)
人口密度 114人/km²
隣接自治体 宇佐市・杵築市・国東市
市の木 柿
市の花 コスモス

豊後高田市と基山町の比較

人口

23,485人 VS 17,713人

平成23年度決算 一般会計 歳入

147億7,578万円 VS 56億9,001万円

住民1人あたりが納めた市(町)税

90,276円 VS 130,688円

住民1人あたりに使ったお金

602,914円 VS 313,569円

○ 大分県豊後高田市 高田庁舎 及び 市立図書館建設現場

■ 自主防災組織について

- 総務課から後藤・荒木両氏が説明。
防災担当職員は、総務係4人で対応。
基本的には災害の少ない町であるとの説明を受けた。
- **質問** 7月豪雨での被害状況は？
◇ **回答** 近隣の中津・宇佐・竹田・日田市の被害は大きかったが当市はほとんどなかった。
- **質問** 自主防災組織立ち上げのキッカケは？
◇ **回答** 災害に対し経験がないことが一番怖い。自治会単位で意識を持って頂くことが重要だと感じた。
- **質問** 自主防災組織の数は？
◇ **回答** 現在163の自治会があり、複数で組織しているところもあり、152の組織がある。

■ **質問** もしものときの連絡網は？

- ◇ **回答** ケーブルTVの普及率が93%あり、基本的には放送で流す。また、防災無線の告知端末での情報伝達訓練や自治会での電話連絡網を各組織で構築していただく努力を重ねる。また、広報で防災訓練を促す。

■ **質問** 防災士について。

- ◇ **回答** 鍵となるのが防災士。各自治会1名を目標とし、現在50人が登録。前向きな方が多く、地域にとっても心強い存在。消防団員とも連携し、防災士も団員が率先して活躍。

■ **質問** 南海トラフ地震など海岸が抱える不安は？

- ◇ **回答** 3.11により防災意識が急速に高まった。津波緊急避難場所なども自治会で設定し、指定避難所まで歩いて実際にかかる時間を把握している。

所感：緊急告知ラジオや防災士など今までに一般質問で取り上げていたことの実用性を確認できた。

■ 新しい市立図書館の建設について

1) 豊後高田市の図書館における現状と課題

- ・昭和62年に開館され、狭小化・老朽化が進んでいる
- ・中央公民館に併設され、耐震化・バリアフリー化も進んでいない
- ・蔵書冊数は約32,000冊(基山町の場合66,000冊)であり、市民1人あたりの貸出冊数も1.03冊(基山町の場合5.85冊)。

2) 「教育のまち」「若者定住促進」の施設

- ・「教育のまち」づくりの礎となる施策が必要。
- ・「まちづくり」は「人づくり」の観点から図書館は文化施策の中心と位置づける
- ・幅広い世代が「学ぶ場」に集い、人が集えば「交流の場」となり、「情報発信の場」ともなる
- ・市民アンケートによる20代の要望

- ・若者が住みたいと思い、安心して子育てが出来る地域社会の確立
- ・地域での課題を解決するための自己啓発の場として、最新の資料・情報に接することが出来る魅力ある施設

3) 用地の選定

- ・庁内の検討組織による用地の選定条件として
 - ①用地所得費及び造成費が生じない市有地を活用
 - ②情報発信・情報収集について利便性が高く、市内の中心地に位置すること
 - ③新市の図書館にふさわしい建築面積を確保する

4) 基本計画の策定

公募委員3名を含んだ15名からなる「豊後高田市進図書館基本計画策定市民懇談会」を設置し、(案)についてパブリックコメント(意見19件)を実施。

○ 大分県豊後高田市 高田庁舎 及び 市立図書館建設現場

5) 新図書館の基本理念

・『現在・過去・未来へ ～ 学びの空間』

①「現在」を知る空間

インターネットなど情報化社会の中、利便性の高い情報端末機器及びデジタル化資料の整備。内容を吟味された図書、最新情報の充実。

②「過去」を訪ねる空間

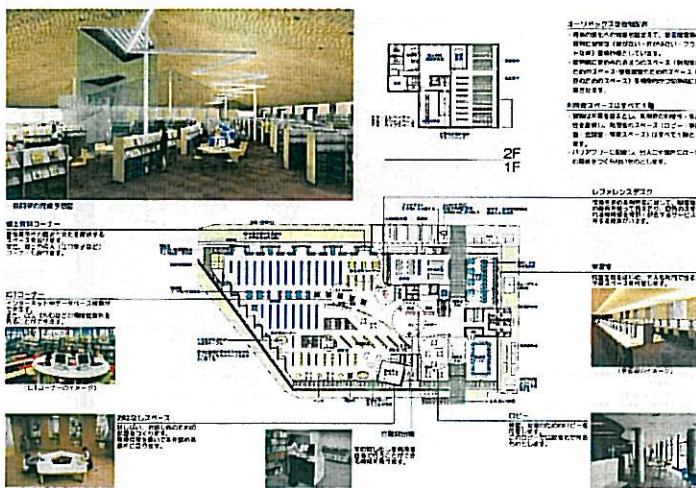
神仏習合の発祥の地である本市は、それに関わる伝統文化や習慣が根強く残った地域である。また「昭和の町」も本市に欠かせない物語。これらを後世に伝えることも新図書館の役割。

③「未来」を考える空間

単に本を貸すだけでなく、地域の人材育成に欠かせない場所。そのため未来を担う子どもたちの「学び」と「集い」の空間確保が求められる。子育て支援の一環として絵本の充実、ボランティアによる読み聞かせなど協働の拠点ともなる。

6) 新図書館の設計概要

- ・鉄筋コンクリート造(一部鉄骨造) 2階建
- ・延べ床面積 2,076㎡ (1F 1662㎡+2F 414㎡)→10倍(基山町の場合 392㎡)
- ・蔵書規模 約140,000冊→2.8倍(基山町 66,000冊)
うち開架 約80,000冊→2.7倍(基山町 46,620冊)



とにかく贅沢な図書館となっている。

1Fの1662㎡だが基山町でも理想的な面積は1500㎡となっている。果たして広さ的にも財源的にも可能なか疑問である。

7) 新図書館の建築費用

・実施設計	1,877万円
・本体工事費	7億3,564万円
・関連工事費・什器ほか	1億3,242万円
合計	8億8,684万円

財源内訳:

- ・中心市街地活性化事業(H23年度予算まで)
「社会資本整備総合交付金」2億1,011万円
- ・過疎対策事業債 6億2,340万円
(基山町の場合、どちらも該当しません)
- その他、資料購入費 1億6,500万円
「住民生活に光をそそぐ交付金」
(基山町の場合、空調費や資料購入費として交付済)

8) 新図書館の管理運営

・指定管理者制度を活用

公募により4団体からの応募があり、選考の結果、TRCグループ((株)図書館流通センター)が管理運営する。予定開館時間は9:00～19:00。司書6人の予定。

所感: 今回の図書館建設の視察は、刺激的でもあり、同時に理想面積がどの程度の広さであるのかを体感できた。

また、首長や庁内検討委員会といった行政機関が場所の選定や財源の確保、補助金申請といったある意味行政にしか判断出来ない箇所をあらかじめ提示した上で建設が進められたため、短期間での開館に踏み切ったものと思われる。

補助金に関しては、「社会資本整備総合交付金」において私も一般質問で中心市街地での図書館建設を考える上で提案したが、残念ながらタイムリミットのため活用できない可能性が高い。豊後高田市の場合は、「幸いなことに」という表現があったが、市中心市街地活性化基本計画を策定し、そのなかでの図書館の位置づけを明記していたため交付金申請がスムーズに行われたと感じた。

行政の役割は、半歩先の視点を持ち、図書館が果たす町全体的な相乗効果を判断し、意志決定を行っていくことが求められることを痛感した。

○ 大分県豊後高田市 真玉庁舎 及び 昭和の町

● 学びの21世紀塾とはどのようなものか？

2002年に学校5日制が導入され、土曜日に公が子どもの学力や体力、心を育てることを保障できたかと思ひ導入した。

きっかけは保護者約3,000人へのアンケート。学力の低下や土曜日の過ごし方に大きな不安を持っていることがわかった。

将来を見据えて21世紀に生きる子どもをどう育てるのかを一番に考えた。3年ぐらいかかってこの町営塾が結果を出し、市民権を得たと感じた。

● 町営塾が子どもの生活に浸透できたポイントとは？

発足時は三つの事業だったが、市民の要望に応じて毎年新しい事業を組み入れた。2003年に受験を控えた中3を対象に教科書学習を行う「夏期特別講座」、2008年には「冬期特別講座」を開講。同年に全中学生対象の「水曜日講座」を開講した。また、園児には「英会話」「文字遊び」を、学童対象外の小4～6年生には宿題や学習支援を中心とした「寺子屋」を開講。中心地に偏りすぎているかの声を受け、約9割の加入率があるCATVを活用した「テレビ寺子屋」を開始。専用テキストを作り、授業でも活用する。各学校の代表者による実行委員会で活用方法を検討し、かなり浸透していると思っている。

所感： 県内23市町村中22位程度の学力だった同市が7年連続のダントツ1位を更新するまでに、なった背景には、町ぐるみでの本気と覚悟の集大成となって表れている。

私は一般質問でもこの町営塾の必要性を訴えた。それは、自治体の教育ビジョンが定まらなければ何事も前に進まないことも同時に感じた。

私は、「教育」は、学校教育、社会教育、家庭教育の同バランスの円の中を通過して子どもたちは成長していくものと思っている。しかし、現状は学校教育のみが肥大化し、アンバランスなカタチで子どもたちが成長して行かざるを得ない状況だ。公営塾をはじめ、社会教育の重要性をもっと打ち出す施策が急務であると改めて感じた。

● 町営塾と民間塾の間に問題はないのか？

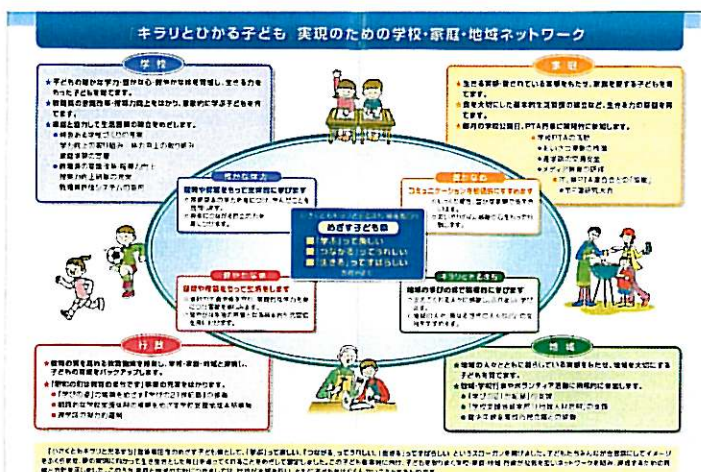
私たちはこの市に生まれ住んでいることが、子どもたちにとってマイナス要因になってはいけなく考えている。辺地であるとか経済的な理由に関わらず受ける教育の権利が保障されないといけなく。

民間塾との問題は一番心配した。実際に伺い、丁寧に説明をし、今では21世紀塾の講師を引き受けていただいている。つまりどちらも地域の学力向上が大事だと思う共通理念が一致しているから。

● 子どもの学力向上の要因は？

教職員の意識が変わったことが第一。学校が変わっていった。地域の人たちも学習サポーターとして教職員に頼りっぱなし、預けっぱなしという意識がなくなり、一緒にやっていくというムードが生まれた。

今は基礎学習を中心にやっているが、今後は子どもたちが将来を見据え、今何をしなければならぬかを理解して、自ら進んで取り組んでいく力をつけて欲しい。そして、飛び立った子どもたちがふるさとに帰って、そこで自分の夢を実現したいと思ってもらい、地域で育った子どもが地域に帰ってくるというサイクルができればいいなと思っている。



▲豊後高田市の教育ビジョンは、学校・家庭・地域のバランスが 見事にとれている。

▲寺子屋で放課後学習中の児童。ボランティアスタッフが指導にあたる。

(日時) 平成24年11月12日～13日

(視察内容) ・自主防災組織について
・図書館建設について
・学びの21世紀塾について

(視察先) 大分県豊後高田市

大分県豊後高田市の概要

豊後高田市は、平成17年に1市2町の新設合併により発足している。
人口約2万4千人、高齢化率34.1%、総面積206.65km²で
豊かな自然と温暖で過ごしやすい瀬戸内式気候である。

・自主防災組織について

1、組織

自治会163 自主防災会152(1地区が複数で組織)
多い所で200世帯で構成している。
平成17年合併時の組織率 49.3%
平成18年度 100%
連絡網が出来たことで100%としている。

2、自主防災組織活性化事業費補助金交付

平成23年度実績 332千円
避難施設等整備事業 1件
防災研修会等事業 8件

補助対象となる経費	補助金
防災資機材等の購入に要する経費	事業費2/3 上限5万円
地域における避難施設等の簡易な整備に要する経費	事業費1/2 上限10万円
自主防災組織の活動に必要な事務的経費	1回の開催につき 3万円以内

3、防災士養成研修会

防災士とは、NPO法人「日本防災士機構」が認定する資格。
資格取得後は、防災意識の啓発や予防訓練活動の主導など活躍がきたいされる。
育成研修は年度一回二日間でおこなわれる。
豊後高田市では、各自治会に一人の防災士育成を目標にしている。

災害が少ない市でも市民がいかに安心して暮らせるか。災害時どのように対応するかを市全体が
考え、取り組んでいると感じた。
災害が少ない町ほど災害に遭った時とどのように対処するか、どのように準備をしていたかが大事だ
というのを再認識した。

・図書館建設について

1、新図書館建設の必要性が高まった。

現在の私立図書館は、昭和62年に開館し約32,000冊程度と少なく市民一人当たりの貸出冊数も1.03冊と低い数値となっている。
また施設の老朽化も進み、耐震性・バリアフリー化も十分でない。
市民アンケートによると図書館の整備を求める声が多く、とりわけ20代を中心とした若者に要望が強いことがわかった。
少子高齢化、人口減少が進む社会にあって、若者が住みたいと思い安心して子育てができる地域社会を作るため必要性が高まった。

2、新図書館の建設概要

平成25年2月開館予定	
鉄筋コンクリート造(一部鉄骨造)2階建	
延床面積2076.01㎡	⇒ 現在の約10倍
蔵書規模 約140,000冊	⇒ 現在の2.8倍
うち開架約80,000冊	⇒ 現在の2.7倍
実施設計 18,774千円	} 現時点の見込み
本体工事費 735,647千円	

新図書館の必要性を改めて感じた。若者が住みたいと思い安心して子育てができる環境に図書館は必要不可欠である。

・学びの21世紀塾について

1、21世紀塾の取り組み

平成14年度から教育のまちづくりの一環として開講した。
当時は学校週5日制が始まり、子供たちの居場所づくりや充実した活動提供が目的だった。
行政の責任として何ができるかという視点からアンケートを取った結果約70%の保護者が学校週5日制に不安があると回答した。
その主なものが、学力の低下や目が行き届かないなどだった。
このようなことから子供の学びの選択肢を広げ可能性を最大限に引き出したいという思いから21世紀塾がスタートした。

21世紀塾は、「いきいき土曜日」、「わくわく体験活動」、「のびのび放課後活動」の3つの事業からスタートした。

①いきいき土曜日

寺子屋講座、パソコン講座	—	幼・小・中土曜日講座
中学校水曜日講座	—	全中学校で毎週実施
テレビ寺子屋講座	—	小・中学生対象

②わくわく体験活動事業

日頃できないようなものづくり、料理教室、太鼓教室など地域の大人と子供が触れ合いながら行う。
芋ほりや竹鉄砲づくりや3泊4日の体験活動などを行っている。

③のびのび放課後活動事業

年間の活動計画や報告を共有することでスポーツ活動と学習活動と両立を図る取り組み。

市全体が学力向上に取り組んだ結果大分県では6年連続学力が1位という結果が残っている。
市民がボランティアで参加し、子供たちの居場所づくりや学力向上を実現している。
すばらしい取り組みをされていることに感銘をうけた。

行政視察 研修報告

(総務常任委員会に同行視察して)

基山町議会 議長 後藤 信八

- 1) 視察研修日 平成24年11月12日(月)～13日(火)
- 2) 視察先 大分県 豊後高田市
- 3) 視察目的 「教育のまちづくり」の先進的取組みを具体的に学び
基山町教育文化行政の充実、向上に生かしていくため。
- 4) 視察内容と所感

全国に誇れる「教育のまちづくり」～ 学びの21世紀塾～**主な取組内容**

- ・ 2002年の学校週5日制導入を契機に、公的機関として自ら、土曜日を中心とした「学びの21世紀塾」を開設
(背景に当時の学力テストは23市町中22番目という危機感あり)
- ・ 原則無料とし、教育における格差(経済的、地域的)をなくす
- ・ 寺子屋講座で教科学習を行う「いきいき土曜日事業」に加えて、農業体験などを行う「わくわく体験事業」、スポーツを通じての体力向上を目指す「のびのび放課後事業」に取組み、幅広い「学び」の教育を実践している
- ・ 現在、ケーブルテレビによる寺子屋も含めると、ほとんどの子どもが参加している
- ・ 結果として県の学力テストでは、7年連続トップを維持し、安定した学力向上が実現している。

* 平成24年度大分県基礎基本定着度調査

	小5国語	小5算数	中2国語	中2数学	中2英語
豊後高田市	81.2	76	73	69.2	76.8
大分県	77.3	71.7	64.6	62.7	64.4
目標値	74	65	63.5	60.3	64.7

「学びの21世紀塾」の特徴

- ① 民間人や教員OBなど多彩な市民講師陣と高校生も参加するボランティアによる支援体制
(94講座に講師陣80人、ボランティア300人、教師によるサポーター137人)
- ② あくまで学校の授業の補完(先にはいかない)。先生も助かる。
- ③ 講義でなく、わからないところをわかるまで教える。学ぶ楽しさを知る。
- ④ エリート養成ではなく、総合力のある子どもを育てる。
- ⑤ 勉強と部活の両立の風土づくり(土曜日は午前中勉強しないと、部活できない)
- ⑥ 教職員のサポート支援と私立塾の協力、共存
- ⑦ 土曜講座以外に、部活のない水曜日の放課後行う「水曜日講座」、中3対象の「夏季、冬期特別講座」園児の英会話、文字指導を行う「幼稚園講座」、小4～小6対象にした放課後学習補充のための「寺子屋昭和館」「寺子屋プラチナ館」など多彩な補充学習を展開している。

所 感

- ① 文字通り 教育行政の「先進地」であり、市長、教育長の強い信念とリーダーシップが市、市民、学校挙げての取組みと感じた
- ② 公的機関がこれほどまでに、地域の子どもの為に、あらゆる教育の機会を無償で提供を続けていることに感動すら覚える。
- ③ 市、市民、教職員、教員OB、保護者の熱意と工夫が、子どもたちの心を動かし、「楽しく学べる」ことで、自然なかたちで塾に通う姿がすばらしい。みんなが「塾に行く気になる」風土づくりの成果ではないかと思う。
- ④ 子どもは学べば学ぶほど伸びるという事実を実感した

基山町教育行政へ提起していきたいこと（議員としての立場から）

- ① 勉学であれ、スポーツであれ、文化であれ、子どもは、自ら学ぶことで伸びるという前提で、基山町においても、より積極的に「教育のまちづくり」を目指すべきである。
- ② 基山町の魅力に「利便」と「自然」と「歴史」に加えて、「教育」が加わることによりこれからの子育て世代に大きなアピールができ、人口増が実現できる。
- ③ 具体的には、例えば、水曜日、土曜日に補充学習の場を設ける、また学童保育の中で補充学習が行えるしくみをつくる。
- ④ 補充学習の中で、子どもたちに、基山町の歴史文化も学ぶ風土をつくる。
(ふれあいフェスタで行われる、小中合同創作劇の取組みを今後も活かすべき)
- ⑤ 基山町教育委員会中心に早急に先進地として視察研修すべきである。

終わりに

- ① 同市では学力向上に伴い、子どもたちの「上位志向」が強くなり、進学を契機に地元を離れいていく子が増えることが悩みであるとのこと。
子どもの将来の為に、という取組みが、地域の発展に即結びつかないことは行政として大きな課題であると考える。

一度は地元を離れても、子育ての為にふたたび、地元に戻ってくるような取組みも必要であるが、世の中に多くの人材を輩出することで、「教育のまち」としての評価が広く定着し、豊後高田市が更に発展することを願う。
- ③ 視察にあたっての、豊後高田市の対応は過去の視察では経験のないくらい懇切丁寧でかつ礼儀正しく、公的機関とは思えないほどの「もてなし」のところが感じられた。わが心として今後の活動に生かしていきたいと思う。